（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２４年度（令和６年度）学校評価自己評価表

松永中学校区	校番　33	福山市立柳津小学校
	最終更新日	2025 年（令和７年）２月３日

Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

・評価はすべての学校で「十分満足できる」「おおむね満足できる」と評価された。
・評価指標は短期では評価しにくい。評価項目の検討が必要。
・学校情報の外部への発信は実態がよくわからず評価しにくい。
・関係者評価制度の見直しを希望する。

児童生徒の現状

・全国学力調査では、全国平均を下回っているが前年度より向上してきている。低学力の子どもが多く、学力定着に課題がある。
・同調査の「意識調査」ではほとんどの項目で全国平均を上回っている。
・挨拶ができる子どもが増えてきた。校区で取組んだ成果が見えてきた。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り開く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども
中学校区として統一した取組等	・「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 ・「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。 ・「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。

Ⅲ　自　校

ミッション

地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する

学校教育目標

進んで学び　豊かな心でたくましく生きる子どもの育成
～夢はでっかく　根は深く～

現　状

〈児童生徒〉
○自分の好きなことや得意なことを発表する場を意図的に設けることで、児童が自分の思いや考えを言葉で伝えようとする意欲が高まっている。
●児童が、自分たちで対話を通してよりよい学級をつくろうとしたり、学校生活をよりよくしようとしたりする主体性は十分には育っていない。

〈授業〉
○課題やめあてを明確に示した授業づくりと基礎学力定着に向けた取組の結果、児童は「わかった」「できた」が実感できるようになってきている。
○自らの学びをふり返ることで、次の学習への意欲や目標を持つことのできる児童が増えた。
●「知識・技能」の定着が十分できていない児童に対する手厚い手立てが必要である。
●語彙力や読み取る力が低いことに課題がある。
●相手に分かりやすいように根拠を示して自分の考えを表現することや、既習事項をもとに新しい考え方を導く力をつける必要がある。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）		【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
めざす子ども像		・自ら考え学ぶ意欲的な生徒 ・主体的に活動し、自ら成長する生徒 ・豊かな心を持ち、地域から応援される生徒
研究	テーマ	児童が表現したり自ら挑戦したりする楽しさを実感できる授業の推進 ～学びを「おもしろい」と感じる児童の育成～
	主内容等	国語・算数・特別活動
めざす授業の姿		【国語】語彙の質と量を豊かにする授業 ・一つ一つの言葉にこだわる。 ・全体と部分を行き来しながら、関係を捉える。 ・学んだことをもとに表現する活動。 【算数】数や数に関する言葉の意味への理解を深める授業 ・算数的な活動を通して、意味を理解する。 ・既習事項や、生活場面と結び付けて考える。 【特別活動】対話をもとにしたよりよい集団づくり ・多様な考えや価値観を共有し認め合える活動。【人間関係形成】 ・話し合いをもとにした自治的活動。【社会参画】 ・振り返りを生かして、新たな議題の提案や課題解決に向けて行動しようとする力の育成。【自己実現】

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
３	自ら考え学ぶ授業づくりを進めて、学力を向上させる。	★	新規	児童が表現したり自ら挑戦したりする楽しさを実感できる授業づくりを行う。	①児童が読んで内容を理解できるようになるように語彙の質と量が豊かになる教材研究をする。 ②次の学びや生活場面につなげた振り返りをする。	①教材研究が児童の主体的な読みにつながったと感じる職員。 （アンケート：８０%以上） ②次の学びや生活場面につなげた振り返りができたか。 （算数科学期末振り返りシート：８０%以上）	①アンケート結果８０%。一つ一つの言葉にこだわりながら教材研究を行い、授業の初めに児童と確認しながら授業を進めたことで、児童自身も言葉にこだわりながら読もうとする姿が見られ理解が深まっていた。 ②振り返りの見取り５６%。ほとんどの学年が目標値を達成できなかった。	３	３	①引き続き、言葉にこだわりながら教材研究を行っていく。 ②学習と生活場面との関連が図れていなかった。導入を工夫したり、体験的な活動を通して実感を伴った理解ができたりするような授業づくりを行う。振り返り名人（振り返りの型）と単元ごとの振り返りシートを活用し、詳しく書く習慣をつけていく。	①アンケート結果 100%。２回の外部講師による研修を通して「読みの視点」にこだわりながら、授業改善を図ることができた。教材研究の視点の変化が、授業づくりに生かされ児童の主体的な読みにつながった。 ②振り返りの見取り71%。振り返りのツールを統一し、全校で取り組んだことで、振り返りの習慣がつきつつある。	３	３	３	①今後も、言葉にこだわりながら「読みの視点」に関する教材研究を深め、児童が主体的に読み、楽しさを実感できる授業づくりを行う。 ②今後も、引き続き実感を伴った理解を図ることができるよう、児童の実態にあわせた指導をしていく。
３	児童・生徒の自己肯定感を高める。	★	新規	話し合い活動を通して、生活上の諸課題を見出したり、解決に向けて実践したりすることができる。	①話し合い活動の進め方や意思表示の方法を提示する。 ②実践のふり返りをおこない、次の課題解決に結び付ける。	①自分の考えをクラスの友達に伝えることができる。 ②クラスの友達は自分の考えを分かってくれる。 ③学級会において、自分の思いや考えを持ち、話し合い活動に参加している。 （児童アンケート８０%以上）	①８８．３% ②９２．５% ③９３．４% 話し合い活動における各学級の児童の実態を把握し、話し合い活動の進め方等の指導について研修を実施した。	４	４	学級活動を軸に自分の考えを他者に伝える場を意図的に仕組み、話し合い活動を通して、児童一人一人が意思決定をしたり、集団として合意形成をしたりする等、集団づくりを進めていく。	①８８．８% ②９８．３% ③８９．７% 学級活動を軸に、自分の考えを学級全体に伝える場や友達と話し合い活動を通して、意欲的に自分の考えを他者に伝える児童が増加し、目標を大幅に達成することができた。	４	４	４	今後も、児童自ら意思決定をしたり、集団として合意形成をしたりする等、よりよい集団づくりの取組を実施していく。
３	教職員の資質・能力の向上を図る。		新規	教職員が授業づくりなど学校内での活動について、失敗を恐れずに挑戦することができる環境づくりを行う。	①教職員が教材研究を深めることで、自信を持って授業に臨める研修を行う。 ②教職員はお互いの良い所を大切にし、行事や分掌の担当者を中心に主体的に業務に取り組む。	①仕事にやりがいを感じている教職員が１００% ②授業づくりなど学校内の活動について、失敗を恐れずに挑戦することができている教職員100%	①やりがいを感じている教職員 100%。 ②挑戦することができている教職員 100% 行事や分掌での仕事に対して教職員がそれぞれが役割意識を持って組織的に取り組むことができた。	３	３	①教科リーダーなどを中心にコクサン会などでの授業改善、教材研究を充実させていく。 ②外部講師を活用した出前授業など、今までにない取組を積極的に実施していく。	①やりがいを感じている教職員が１００% ②挑戦することができている教職員 100% ２、３割が「どちらかというと」という回答をしている。	３	３	３	①研修や校内分掌などで、一人一人の教職員が挑戦できる雰囲気をつくり、その挑戦を教職員全体で支えていく。 ②続けて外部講師を活用した出前授業など新しい取組、意欲的な取組を促していく。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０%以上１００%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０%以上８０%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０%以上６０%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０%未満の達成度	目標を達成できなかった。